

# 縦隔腫瘍と術前の鑑別が困難であった 稀な心膜原発悪性中皮腫の1例

吉田 康浩<sup>1)</sup> 蒔本 好史<sup>1)</sup> 阿部 創世<sup>1)</sup>  
永田 旭<sup>1)</sup> 宮原 聡<sup>1) 3)</sup> 濱中和嘉子<sup>1)</sup>  
柳沢 純<sup>1)</sup> 濱武 大輔<sup>1)</sup> 平塚 昌文<sup>1)</sup>  
吉永 康熙<sup>1)</sup> 白石 武史<sup>1)</sup> 濱崎 慎<sup>2)</sup>  
鍋島 一樹<sup>2) 3)</sup> 岩崎 昭憲<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 福岡大学医学部呼吸器・乳腺内分泌・小児外科

<sup>2)</sup> 福岡大学病院病理部

<sup>3)</sup> 福岡大学医学部病理学教室

要旨：心膜原発悪性中皮腫は全中皮腫の0.7%～2.0%と稀な疾患とされる。症例は69歳女性，縦隔腫瘍による心タンポナーデの診断で，福岡大学病院に入院。胸部レントゲン写真と胸部CTにて心基部に巨大な腫瘍性病変と多量の心嚢液及び両側胸水を認めた。心嚢液および胸水の細胞診で異形細胞は認められなかった。胸腔鏡による縦隔腫瘍生検で悪性中皮腫と診断された。腫瘍切除を試みたが，腫瘍が上行大動脈と肺動脈本幹に浸潤していたため，心膜開窓術に終わった。

キーワード：心膜中皮腫，悪性中皮腫，心タンポナーデ，縦隔腫瘍